

# 日本文化学科

Department of Japanese Studies

日本文化を深く理解し、  
世界へ発信できる力を養います。



## 学科の特徴

### ▶文化という視点から幅広く学ぶ

日本文化を正しく理解するために、芸術・思想系、民俗・歴史系、現代社会系など様々な角度から学べる豊富なカリキュラムを用意しています。自分自身の興味に合わせてじっくりと学べます。

### ▶伝統文化を実践と理論の両面から修得

茶道、華道、書道、香道、有職故実といった伝統文化については、共通科目の中で「実習」することが可能です。そうした体験をより正確に、また理論的に理解するための講義科目が、日本文化学科の専門科目には設けられています。実践と理論の両方を通じて、正しく伝統文化を理解することを目指した、本学ならではのカリキュラムです。

### ▶高いコミュニケーション能力を養う

日本文化の特質について、世界へ発信するために必要な語学力、情報処理能力など、高いコミュニケーション能力を培います。海外からの多くの優秀な留学生と一緒に学べる充実した学習環境も魅力です。

### ▶学科の枠を越えて自由に学べる

日本文化学科の専門科目に限らず、一人ひとりの興味・関心に合わせて、共通科目や他学科の専門科目群からの履修も可能です。より幅広く学ぶことによって、将来の可能性が広がります。



## 教育目標

日本文化を正しく世界に発信するために、  
深い造詣とグローバルな視野を身につける。



## 「日本文化」を知るとのこと—「自分」を発見する契機に。

日本文化学科 主任  
今橋 理子

「日本文化」という専攻を掲げる大学は数多いですが、中でも本学の特徴は、古代から現代まで長い時間軸を射程に置き、そこに文学・歴史・芸術・思想・生活・社会・メディアといった、広汎な文化研究領域からアプローチできるカリキュラムが構成されている点です。学生は1年次より英語など語学の強化に取り組みつつ、「日本人論」「日本文化基礎演習」などの必修科目を通じ日本文化を学ぶ「意味」について考えます。さらに、2年次以降は多

くの専門科目を通じて、自らが「日本文化の視点」を発見し、最終的に3・4年次では全員が「日本文化演習」(通称「ゼミ」)を履修し、そこで「卒業論文」を完成させます。近年、就職活動では「どのような卒論テーマに取り組んでいるか」ということが、面接の際に重要な話題となる場合も多いです。卒論テーマを見つけることは、自分の関心の在り処を客観的に知ること——つまりひとつの「自己発見」に繋がることになるのです。

## 基礎演習科目群 1・2年次

異なる3～4人の教員の指導のもとで、「日本文化」を学ぶ。

基礎演習で大学4年間の学習の動機づけを行い、問題発見・問題解決能力を養うことを目指します。同時に、自分の考えをレポートにしたり、発表したりするための力を養います。「基礎演習I～VI」は半期の授業です。3～4人の教員の各専門分野から、多様な視点を得た上で、後半2年間の進む方向を見つけてください。2年生が1年生をリードし、サポートしながら、ともに学びます。

主な科目  
●日本文化基礎演習

## 日本文化基礎科目群 1・2年次

言語や思想、文学から伝統文化、生活文化まで。

日本文化の特質の基礎を理解するための科目群です。日本の文化政策をはじめ、日本の言葉や文学・思想の歴史、茶道や華道などの伝統文化、日本の生活文化や社会制度の特徴、そして日本人論そのものをテーマにした科目もあります。

主な科目  
●日本文化政策論 ●民俗学  
●日本人論 ●日本政治経済史  
●日本文化論 ●日本社会制度史  
●日本文学史 ●近代文化論  
●日本語学  
●日本思想史  
●日本生活文化史[衣文化/食文化/住文化]  
●伝統文化論[花/茶/書/舞踊/演劇/邦楽]

## 比較文化研究科目群 3・4年次

文化の比較によって、  
様々な文化の特色を知る。

文学、芸術、民俗、社会、嗜好、生活の様々な側面から文化を比較し、日本文化の特色と実際を学んでいきます。

主な科目  
●比較文化論  
[比較日本文化論/文学/芸術/民俗/社会/嗜好/生活]

## 取得できる資格・免許(P45参照)

- 司書
- 学芸員
- 中学・高校教諭一種免許状(国語)

## 民俗・歴史系科目群 2～4年次

暮らしの中の信仰や衣食住から  
日本史、歴史資料まで。

人々の暮らしや社会の様子の過去と現在を学ぶ科目群です。民俗信仰や民俗芸術、衣食住の文化、そして日本の政治・経済・社会制度の歴史をテーマにした科目などが置かれています。

主な科目  
●民俗文化論[民俗信仰/民俗行事・祭礼都市民俗学]  
●比較民俗文化論(民間伝承)  
●比較生活文化論[地域食文化論/染織文化論]  
●日本生活文化論[ものの文化史/通過儀礼/住文化論/都市生活論]  
●日本史論[古代/中世/近世/近現代]  
●日本文化交際史  
●歴史資料論[考古/古文書]

## 芸術・思想系科目群 2～4年次

過去と現在の芸術から  
神話、思想、文学まで。

日本の芸術と思想を学ぶ科目群です。様々な芸術の歴史と現状、宗教や芸道などの思想、昔から今にいたる日本文学の歴史などの科目があります。また、日本とかわりの深い中国文学について学ぶ科目もあります。

主な科目  
●形象文化論[絵画/生活芸術/空間造形/近現代美術/芸術交流論]  
●日本思想研究  
[神話/仏教/神道/歌学/芸道/近世思想]  
●身体文化論[現代舞踊/現代演劇]  
●日本文学論[上代/中古/中世/近世/近現代]  
●中国文学論

## 外国語科目1群・2群 情報技術科目群 1～4年次 日本語表現法科目群

発信能力を身につける。

日本文化の特質について、世界の人々に説明できるように、英語をはじめとした外国語と日本語表現法や情報処理を学びます。

## 将来の活躍分野(P50参照)

### 日本文化の伝統と特質を世界に伝える人材として

高い教養と高度なコミュニケーション能力を活かして、企業の海外部門や商社、外資系企業、マスコミなど活躍の場は多様です。また、海外協力機関や国際機関、国家公務員、地方公務員など幅広い国際交流分野での活躍が期待できます。日本語教員への道も開かれています。

## 現代社会系科目群 2～4年次

メディアやファッションから  
家族や環境まで。

現代社会や現代文化の特質について学ぶ科目群です。都市文化やファッション、メディアやジャーナリズム、家族や児童文化、食品や環境、ポピュラー文化やスポーツ文化など、幅広く現代をとらえるための科目が置かれています。

主な科目  
●現代文化論[都市論/郊外論/児童文化/ファッション/イメージとメディア/カルチュラル・スタディーズ/スポーツ文化論]  
●メディア論  
●現代生活論[現代食品情報/現代の食生活/自己と他者/個人と集団]  
●日本政治論  
●日本経済論  
●日本社会論

## 専門演習科目群 3・4年次

3・4年次の2年間で1つのテーマを研究。

専門演習では日本文化の様々な分野の高度な研究・教育が展開されます。基礎演習やその他の科目で学んだことを踏まえ、専門演習の中から1つを選択します。3・4年次とも同じ教員の専門演習を履修し、専門性を深めながら、自分の研究テーマについて、最終的に卒業研究や卒業論文としてまとめられます。専門演習は、4年生が3年生をリードし、サポートしながら、ともに学びます。

主な科目  
●日本文化演習  
●卒業論文  
●卒業研究

## 他学科の専門科目群 1～4年次

学科の枠を越えて自由な学びを展開。

日本文化学科の専門科目の他に、共通科目や国際コミュニケーション学科・英語コミュニケーション学科の専門科目を履修することができます。

# 専任教員紹介

**食品研究**

食は生命維持や健康維持に必須ですが、一方で食べ物の素材、作り方、食べ方、調理法や嗜好性などは個人や家族、地域、国、民族などでさまざまです。この食の共通性と多様性を対象にさまざまな手法で分析・評価します。



阿部 誠 教授

担当科目  
 ●現代生活論Ⅰ(現代食品情報)  
 ●自然環境論Ⅲ(生物資源利用)  
 ●生活環境論Ⅲ(健康と栄養)  
 ●生活文化演習Ⅲ(食品製造)  
 ●生活文化演習Ⅳ(食品加工)

**美学、芸術学**

人間の精神文化の代表的なものが芸術です。芸術をめぐって人々が何をしてきたか、どう語ってきたかを調べることを通して、私たちが今生きている精神文化がじつはどのようなものであるのかを探ります。



尼ヶ崎 彬 教授

担当科目  
 ●身体文化論Ⅰ(現代舞踊)  
 ●身体文化論Ⅱ(現代演劇)  
 ●日本思想研究Ⅳ(歌学)  
 ●日本思想研究Ⅴ(芸道)  
 ●国際文化交流演習ⅡB(演劇)

**日本近世史**

小説・ドラマなどで流布するイメージや、書籍に記された知識の受容ではなく、江戸時代に作られた史資料から、自分自身で歴史を読み解き、考えることの面白さを伝えたいと思っています。



岩淵 令治 教授

担当科目  
 ●日本史論Ⅲ(近世)  
 ●歴史資料論Ⅲ(古文書)  
 ●日本学演習Ⅰ、Ⅱ  
 ●比較文化論Ⅴ(社会)  
 ●日本政治経済史

**上代文学**

神話は古代の人々が世界をどのように見、何を想像したかを教えてくれます。そしてそれは今の私たちの生き方と無縁ではありません。これからの生きるために古代を眺める。大事なことだと思いませんか？



神田 典城 教授

担当科目  
 ●日本文学論  
 ●日本思想研究Ⅰ(神話)  
 ●日本文学Ⅰ、Ⅱ(上代)  
 ●日本思想史Ⅲ、Ⅳ

**スポーツ文化論、スポーツ人類学、スポーツとジェンダー学**

スポーツの「窓」から社会を眺め、それを読み解くと同時に、社会の動きからスポーツのあり方を模索します。「人間にとってスポーツとは何か」「なぜ人はスポーツに夢中になるのか」ということを課題に考察をすすめます。



荒井 啓子 教授

担当科目  
 ●現代文化論(スポーツ文化論)  
 ●生活環境論Ⅱ(ウエルネス論)  
 ●スポーツ・健康科学演習Ⅰ、Ⅱ  
 ●特別総合科目Ⅹ

**平安文学研究、比較日本文学研究**

『源氏物語』や平安時代の日記文学の読解を通じて、平安文化史全般にわたる広い教養を身につけてもらいます。あわせて、日本古典文学に対する国際的視座に立った考察を試みます。



伊藤 守幸 教授

担当科目  
 ●日本文学論Ⅲ、Ⅳ(中古)

**日本近代史、文化史**

最近の歴史研究の動向を踏まえ、研究主題の立て方と方法について学び、歴史的にものを考えるセンスを養います。歴史は暗記科目ではなく、思考力と想像力に満ちた学問です。



木村 直恵 准教授

担当科目  
 ●日本人論Ⅱ  
 ●近代文化論Ⅰ、Ⅱ  
 ●日本文学論Ⅷ(近現代)  
 ●比較文化論Ⅱ(文学)

**図書館情報学**

身の回りにあるメディアや情報を批判的に検討することは、現代社会のあらゆる場面で求められます。個人がどのように関わりつつ、自らの情報世界を構築しているかを考えます。



越塚 美加 教授

担当科目  
 ●図書館概論  
 ●図書館サービス概論  
 ●レファレンスサービス演習  
 ●図書館情報資源概論  
 ●図書館サービス特論

**日本美術史(江戸絵画史)、比較日本文学論**

専門は江戸絵画史と比較日本文学論です。18世紀の日本には博物学のブームが起き、美術と科学が見事に融合した、魅力的な新しい芸術が創造されていました。かつて存在した活気ある日本文化を、若い学生たちと共に追究していきたいと思っています。



今橋 理子 教授

担当科目  
 ●伝統文化論Ⅰ(花) ●比較文化論Ⅲ(芸術)  
 ●形象文化論Ⅱ(絵画)  
 ●形象文化論Ⅳ(空間造形)  
 ●比較文化論Ⅱ(比較日本文学論)

**情報処理、計算科学**

教室で講義を受け教科書を読むことも大事ですが、「コンピュータで何かを作る」ことで、実践的にコンピュータやネットワークのさまざまな利用法をより深く学びましょう。



岩城 宏明 教授

担当科目  
 ●メディア論  
 ●情報処理Ⅰ(コンピュータ入門)  
 ●情報処理Ⅱ(コンピュータ基礎)  
 ●情報処理Ⅲ、Ⅳ(コンピュータ応用)

**日本語学(現代語の意味論・文法論)**

現代日本語研究の分野を中心としつつ、諸外国語との対照研究、言語文化論、日本語教育などの諸問題を幅広く扱っています。現代日本語研究は誰でも自由に参入できる分野です。



佐藤 琢三 教授

担当科目  
 ●言語学Ⅰ、Ⅱ  
 ●応用日本語学Ⅰ、Ⅱ

**食教育、環境教育、生態学、コミュニケーション**

環境や他者への思いやりのある社会性や世界観を持つことが重要です。PW・GEMSなどの体験型学習を通じ、環境に対する豊かな感受性と見識を備え、それらを伝え合意形成できるコミュニケーション能力のある人づくりが最大の目標です。



品川 明 教授

担当科目  
 ●特別総合科目Ⅴ(環境問題)(フードコンシャスネス2)  
 ●自然環境論Ⅰ(エコロジー)  
 ●社会環境論Ⅲ(食糧の安全性)  
 ●生活環境論Ⅰ(人間と食)

**教員著書紹介**

『The Sarashina Diary: A Woman's Life in Eleventh-Century Japan』  
 伊藤守幸 共著 2014年 Columbia University Press  
 日本古典文学研究者ソーニャ・アンツェン氏との共同研究にもとづいてまとられた『更級日記』の英訳書。日本国内の研究水準を正確に反映した詳細な解説と注を付して、平安時代の菅原孝標女の生涯を、現代の英語圏に蘇らせた。



『兎とかたちの日本文化』  
 今橋理子 2013年 東京大学出版会  
 日本人にとって兎はペットの犬や猫とは違い、古来「月」としての聖性や「田の神の遣い」という意味を帯び、特別な「かたち」の文化を形成してきた。兎をめぐる文学や伝統美術、さらに和菓子や現代アートも取り上げながら、日本文化の特質に迫る。



『葛藤するシティズンシップ—権利と政治』  
 木前利秋、時安邦治、亀山俊朗 編著 2012年 白澤社、現代書館  
 政治的共同体の成員資格にもとづいて権利と義務は平等に配分されるというのが近代社会の原則であるが、この原則は時として諸々の矛盾をはらむ。本書は、グローバル化した現代社会において諸権利をどのように構想すればよいかをめぐる共同研究の成果である。



『幻想の歌謡論: 進歩史的な歌謡史に関する批判的研究』  
 福島直恭 2013年 笠間書院  
 現代の日本人は、日本語には今も昔も「歌謡」が存在すると考えているし、学校でもそう教えられている。そして「歌謡」は、相手を欺う気持ちを表現するための言語的ツールであると信じられている。本書は、それらの「歌謡」に対する常識的な認識を根本から疑い、もう一度考え直してみようとするものである。



**情報科学、情報セキュリティ**

情報技術は大きな利便性をもたらしてくれませんが、一方で、これまでにない問題を引き起こしています。安全に安心して利用できる情報社会を構築する上で、構成員としてどのように振る舞うべきかについて考察します。



清水 将吾 准教授

担当科目  
 ●情報処理Ⅰ(コンピュータ入門)  
 ●情報処理Ⅱ(コンピュータ基礎)

**現代美術史、アートマネジメント(博物館学)**

日本の現代美術の歴史と意味を国際的視点から捉え、日本文化とは何か、日本人とは何かを考えます。感性を視覚化した美術は地球規模のコミュニケーションツールでもあります。



清水 敏男 教授

担当科目  
 ●形象文化論Ⅴ(近現代美術)  
 ●博物館学Ⅰ  
 ●博物館実習Ⅰ、Ⅱ

## 専任教員紹介

### 社会学・社会思想

私たちの暮らす世界のたいの事柄は、社会的にアプローチできます。当たり前だと思っていた世界が違って見えることが社会学の楽しみです。ぜひその楽しみを一緒に探究する仲間になってください。

- 担当科目
- 現代生活論Ⅳ(個人と集団)
  - 基礎社会学
  - 西洋思想史概論
  - 人間関係論Ⅶ(組織社会)



時安 邦治 教授

### 中世文化論、民俗学、比較文化論

様々な伝統的な文化や民俗を歴史的に把握し、さらに文化比較の観点から分析します。そして、現代社会における意義を考えていきます。また美術館・博物館・祭礼などの見学を行います。

- 担当科目
- 日本文学論Ⅴ(中世)
  - 比較民俗文化論Ⅰ、Ⅱ(民間伝承)
  - 比較文化論Ⅳ(民俗)



徳田 和夫 教授

### 日本語学、日本語史

専門は日本語学、特に日本語の歴史や変化について研究しています。今は日本語ブームといわれますが、正しいとか間違っているという捉え方は違った、日本語に対するアプローチがあることを知ってもらいたいと思います。

- 担当科目
- 日本語学Ⅰ、Ⅱ
  - 社会言語学Ⅰ、Ⅱ



福島 直恭 教授

### 日本染織史、服飾史

染織や服飾を通して、日本で生み出された文化や歴史について考えていきます。今日まで続く服飾文化の源流や、様々な時代の諸相を分析することにより、日本文化の本質に触れてほしいと思います。

- 担当科目
- 日本生活文化史Ⅰ、Ⅱ(衣文化)
  - 日本生活文化論Ⅱ(通過儀礼)
  - 比較文化論Ⅶ(生活)
  - 比較文化論Ⅹ(工芸)
  - 伝統文化論Ⅷ(染織)



福島 雅子 准教授

## 卒業論文・卒業研究題目のテーマ例(2014年度)

- 素材からみる指輪文化の変化—日本人は何故プラチナの指輪を好むのか—
- <女形>を描くこと—鏡木清方と芝居の美人画
- 古事記偽書説発生とその考察
- 「大正ロマン」とは何なのか
- 源氏物語における漢詩文引用の特徴
- 江戸語における行為指示表現の否定的な言語表現の研究—歴史語用論の観点から—
- 学童保育の現状と課題について
- シンデレラ型説話の東と西
- 雛人形の諸相
- 村の中の陰陽師—「指田日記」から見る陰陽道と村社会—
- 伝統カポチャの流通と特徴
- 高齢化社会に着目したフィットネスクラブにおける介護予防プログラムの展開
- Twitter上で形成される一時的なコミュニティの実態について
- コミュニケーション能力の重要性—教育からの効果的アプローチとは—
- 呼称の実態に関する研究
- コミュニケーション型アートの可能性と課題—日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト」を中心に—
- 3DCG動画作成ツールを用いたアニメーション制作—モノクロによる映像表現—
- 誰でも漫画家になれる時代の漫画出版

## 私の学び

### 1年次 日本文化を世界に向けて発信できるようになりたいです。

オープンキャンパスの時に日本文学学科の先生が私たちに問いかけた「あなたは、日本の文化をきちんと説明できますか」という言葉が心に残り、日本文学学科に入学しました。授業では、様々な視点から日本文化に触れています。春学期の「日本語表現法Ⅰ」では、書き言葉と話し言葉について具体例を交えながら学びました。友人と話す言葉と目上の人に話す言葉の違いなど、分かっているつもりでも迷ってしまうことも多く、日常の会話を顧みる良い機会になりました。

体験しながら学ぶ科目が充実しているのも特徴で、「伝統文化演習Ⅳ(華道)」では、生け花を習います。学んだことを実際に行うため知識の吸収も早く、楽しく学ぶことができます。これからも、ここで身につけた知識を基に、日本文化を世界中の人に伝えられる人になれるよう努めていきたいと思っています。

### 日本文化学科 1年 赤池 あみ

埼玉県・私立聖野高等学校出身

夏休みにカナダ語学研修に参加しました。言いたいことがなかなか伝わらず、今後の課題として在学中に語学力を磨いていきたいと思っています。また、留学生を支援するランゲージパートナーにも登録し、交流を図っています。



### カリキュラム

	月	火	水	木	金	土
1	春学期		BASIC READING			
	秋学期		READING & WRITING	哲学		
2	春学期	スポーツ・健康科学演習Ⅰ	情報処理Ⅰ(コンピュータ入門)	特別総合科目Ⅴ(環境問題)	日本生活文化史Ⅲ(食文化)	BASIC READING
	秋学期		情報処理Ⅱ(コンピュータ基礎)	生活環境論Ⅰ(人間と食)	民俗学Ⅱ	READING & WRITING
3	春学期		日本語表現法Ⅰ			日本文化基礎演習Ⅰ
	秋学期	NEWS LISTENING	伝統文化論Ⅵ(演劇)	日本文化基礎演習Ⅱ	社会環境論Ⅰ(環境法)	
4	春学期	BASIC LISTENING		日本社会制度史	BASIC LISTENING	
	秋学期	伝統文化演習Ⅳ(華道)	西洋近代史概論		NEWS LISTENING	
5	春学期	人間関係論Ⅱ(母体の健康と育児)				
	秋学期					

### 4年次 学生生活で身につけたことを発揮し、喜びを与えられる人に。

大学生活では、日本文化の歴史的背景や意味から現代における発展や影響まで深く学ぶことができました。高校時代に、海外からの留学生に自分の言葉で日本のことを説明できずに後悔した経験があったのですが、今ならある程度自信を持って話すことができるのではないかと思います。

日本文学学科では、2年次までに基礎を学び、その後より専門的に学びを深めていきます。それまでは単に知識として「知っていた」ことが、「分かった」に変わっていく学びの醍醐味を感じることができました。メディアを通じた女性への文化的影響に興味を持ち、3年次からのゼミナールでは「メディア社会学」を専攻しています。卒業論文では、ファッション誌を通じた20代女性のライフスタイルの変遷を調べています。いろいろな観点からの推考が必要となるテーマであり、これまでに学んだことを活かして取り組んでいます。

就職は、三菱東京UFJ銀行から内定をいただきました。面接でアピールしたのは、「同業他社と同じサービスを提供するにしても、オリジナリティを大切に、創意工夫をしながらお客さまのニーズに対応したい」ということ。日本文化の特徴でもある「おもてなしの心」を学んだことや、銀行と同じく創意工夫がサービスの質につながる学習塾でのアルバイト経験があったことで、自然と話すことができました。社会に出てからも、お客さまの気持ちに配慮し、いつでも喜んでいただける社会人になりたいです。

### 株式会社三菱東京UFJ銀行 内定

### 日本文化学科 4年 斎藤 麻由子

神奈川県立横浜平沼高等学校出身

卒業論文のタイトルは「女性のライフスタイルと雑誌の相互作用」。メディアの発達で価値観が多様化する現在、その中心の一つである雑誌の流行を見ることで、現代女性が考える理想像が浮き彫りになればと考えています。

